

校内研究授業事後検討会の活性化に関する研究

所属校：板橋区立板橋第六小学校

氏名：関 口 達 紀

派遣先：早稲田大学教職大学院

キーワード：校内研究授業・事後検討会・同僚性・ナラティブコーチング・ワークショップ

I 研究の目的

1 校内授業研究の実態

日本の教師は、校内研修によって授業力を磨き、授業の質を向上させてきた。中でも、教師集団の協働で組織的に行う校内授業研究は、教師の力量形成、学校全体の教育力の向上に重要な役割を果たしてきた。教師が授業力を伸ばし、学校全体が教育力を高めていくためには、校内研修の充実、そして、校内授業研究のさらなる活性化が求められている。

しかし現在、「形式的な」「盛り上がり欠ける」「予定調和的な」「十分に効果のあがらない」形骸化した校内授業研究会が行われている例は少なくない。研究授業事後検討会の多くは①あいさつ・講師紹介 ②分科会提案 ③授業者自評 ④研究協議 ⑤指導・講評 ⑥謝辞 というスタイルで進められる。この検討場面で、授業の内容や児童の変容、学びの様子について、ねらいに即した十分な話し合いを行うことはなかなか難しい。授業者への配慮から、あいまいな言葉でほめるばかりの感想が続いてしまう検討会、厳しい批評者の主張に全体が流されてしまう検討会の実態がしばしば指摘される(千々布 2005)。校内研究会の形骸化をくい止め、実践に生かすための取組が望まれる。

2 校内授業研究についての近年の研究動向

近年、授業研究の分析手法も発達してきている。D. ショーンの「反省的実践家」(佐藤・秋田 2001) という考え方が注目されて以来、授業を省察的に振り返る方法の開発が盛んになってきた。研究者と教師達がともにVTRを見ながら実践を振り返る検討会の手法は、次第に多くの学校に採り入れられ、実践され始めている。また、検討会で教師が自身の見方をどのように問い直しているかを分析する研究(秋田・坂本 2008)や、事後検討会を客観的に分析する方法の開発研究(姫野・相沢 2007)も行われるようになった。

3 課題と本研究の目的

しかし、こうした授業研究の手法や、研究的な事後検討会の分析を、即座に一般校に導入することは難しい。研究者の参加を見込めない学校や、研究指定等を受けていない学校で、教師同士が日常的に教育活動を

進めながら研修を実践にどう結びつけていくのか、その手立てが、十分に明らかにされていないからである。実際に、校内研究会でどのような工夫をすればよいかを明らかにすることは重要だと考える。

本研究の目的は、小学校の校内研究授業事後検討会の活性化をねらったいくつかの事例に着目し、整理、分析する作業を通して、事後検討会改善のための視点や条件を明らかにすることである。

II 研究の方法

1 代表的な実践記録の検討

校内授業研究の代表的実践校の記録や出版物から、事後検討会の事例について検討する。そこから活性化のための視点や条件を整理し、まとめる。

2 得られた知見に注目したフィールドワーク

都内小学校3校の校内授業研究会に参加し、観察、聞き取りを行い、事後検討会の状況を記述する。その際1で得られた知見に注目し、整理、考察を行う。

III 研究の結果と分析

1 実践記録から得られる知見

(1) 実践記録の選定

授業研究と事後検討会で全国から注目を集めている、先行実践校(ア. 茅ヶ崎市立浜之郷小学校 イ. 練馬区立豊玉南小学校 ウ. お茶の水女子大学附属小学校)を選び、出版物の実践記録を検討した。そして、何が検討会を活性化させているのか、その条件を分類、整理した。

(2) 検討会を活性化させる知見

その結果、以下の点が事後検討会を活性化させる特徴的な要素として析出された。

《ツールの活用》

- a. 意見表明用の付箋、カードを活用する
- b. 授業VTRを活用する

《発言を促す仕掛け》

- a. 発言内容についてのルールを設定する
 - ①参加者同士が対等な立場で発言する
 - ②批評・批判を避ける
- b. 少人数による話し合いを重視する

(3) 知見についての考察

《ツールの活用》

付箋へ記入することで、自分の考えが整理され、発言への安心感につながる。また書く行為自体が、参加者の能動的な参加を促す。また付箋を動かしながら参加者の意見を整理すれば、問題解決の方向性が見える。また、その結果を可視化することで、客観化した内容を参加者で共有することが出来る。

授業VTRは、具体的に指摘された場面を共有するために、また、観察時に看過された出来事に気付くために、非常に大きな役割を果たしていると思われる。

《発言を促す仕掛け》

成功例には、検討会活性化のための「ルール」がある。その多くは、授業者の負担や緊張の軽減のため、あるいは、参加者の対等な立場での意見交換を促進するような形で機能している。

また、少人数で話す場を設定することで、リラックスした雰囲気づくり、個々の発言場面（回数）の増加等の効果が期待できる。発言に自信がない者も、話し合いに参加できるような形であると言えるだろう。

2 フィールドワークによる事例検討

(1) 実施校の選定

都内の公立小学校3校（X校、Y校、Z校）について、1で得られた知見に注目したフィールドワークを行った。知見に基づいて、結果を整理した。

(2) 結果（以下、表1に示す。）

(3) フィールドワークの考察

《ツールの活用》

どの学校でもカードが用いられていたが、X、Y校では主に、グループ討議の内容を集約し可視化する目的で使われている。全体会で発表に使うという目的となると、メンバーへの遠慮や配慮が生まれ、当初微妙に異なっていた個々のいくつかの意見が捨象されてしまう可能性もある。カードの活用目的に自覚的でないといけないという点を改めて指摘したい。個々の意見をいかに表出させるかを考えるなら、付箋等、個人の意見が残る方法を探るのも一つの工夫である。

《発言を促す仕掛け》

3校とも、少人数の話し合いの場面が見られ、活発な議論が展開されていた。しかし全員での検討になると様子に差が見られた。少人数で活性化された議論をどのように全体会につなげていけばよいだろうか。

教師集団の人間関係が良好なX校では、ベテラン教師が発言内容や言い方を工夫したり、出番を意識して発言を行ったりすることで、協議を活性化させていた。

またY校では、「少人数グループ討議」→「全体会」→「サロン（自由席での自由な語り合い）」というように検討会を3層に分け、それぞれの場面に異なる意味をもたせていた。Z校のナラティブ・コーチングのように、新たな具体的手法を取り入れることも一つの方法である。Z校では、「批評・批判はしない」「YES（よい点）とAND（改善点）で語る」等のルールと、2人、数人、全体へと徐々に拡げていく場づくりの工夫が見られるこの手法が、忌憚のない議論を支えていた。

若い教師が多く在籍する職場、大規模校等においては特に、協議のルールを設けたりワークショップを導入したりして、コミュニケーションをとっていくことが重要だと考える。

表1 フィールドワークの結果

ツールの活用	X校	a. カード（青・良好、赤・問題点） ○事前分科会協議（低中高 4-5 名）をまとめるための記録として ○全体会発言時に貼って使用 ○会場内参加者に可視化できる 【集約するカードのため、個人の意見が反映されにくい場合がある】
	Y校	a. カード（白・良好、緑・問題点、黄・改善点） ○事前学年協議（学年一専科会 4-5 名）の記録として ○全体会で発言する内容を記入 ○会場内参加者に可視化できる
	Z校	a. カード（YES・良好 AND・改善点） ○全体会での少人数協議の記録として ○授業者、参加者に可視化できる
発言を促す仕掛け	X校	b. 少人数の事前協議が行われる ○分科会提案シートで発言・観察の視点が示されている ○公開授業当日、授業者より授業の視点のガイダンスがある ○掲示した分科会協議カードを見ながら発言ができる ○司会者が場の様子を見ながら指名する ○会議の様子を見つ、ベテランが発言を行う
	Y校	b. 少人数の事前協議が会場で行われる ○正面の横断紙にカードを掲示し、他グループの話し合いも参考にできる ○全体会はやや重い雰囲気がある ○検討会第2部サロンは席もテーマも自由となり、雰囲気が和らぐ ○サロンは全体会の振り返りも兼ねており、発言数も増える ○人数→全体→自由 会議の場の転換の工夫がある 【提出カードについてのみ全体会で発表することが原則のため、発言の自由度が低い】
	Z校	a. ナラティブ・コーチング・新しい手法の導入 ○YES、AND という二つの観点で話す ○授業について批判的なことは言わないというルールがある ○参加者は「みんなちがって、みんないい」「守秘義務」等独自のルールを宣誓して協議に入る b. 少人数から全体会へ話し合いが進む ○4分間語る→1分で相手に要約して返す ○全員が2人組で互いに感じたことを述べ合うことから始める 【a、bはナラティブ・コーチングの導入により可能になっている】

IV 考察

発言を促す仕掛けや現実的な工夫によって、検討会が活性化する可能性があることが分かった。ナラティブ・コーチングについては、教師集団が同僚性を高めるための手段として、また授業研究や会議に対する教師の形式性をうち破る一つの方法として注目される。

知見を実践レベルで導入するためには、手法のみを表面的に真似るだけでは定着しない。校内授業研究を同僚性を高める場ととらえ、学校づくりの方向性を共有する場としていくことも、今後の課題として考えていきたい。